

# 海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間:2020/09/01 ~2020/9/30)

## 1. 勉学の状況

2020年9月1日からアルバータ大学の授業を受講しています。新型コロナウイルス感染拡大による社会状況の悪化に伴い、カナダへの渡航は中止となりました。しかし、アルバータ大学もほぼすべての授業をオンラインで実施することなので、日本からオンラインで授業を受講しています。1月からのWinter Termで社会状況が良くなれば、カナダに渡航して留学を続けようと思っています。初回の報告書なので軽く自己紹介したいのですが、そちらは生活の状況の方に書きたいと思います。

私はFall Termで2つの授業を受講しています。

### 1.Introduction to Linguistic Analysis (LING 101)

このコースでは、言語学に関する内容を幅広く学びます。LING101の101という数字は授業の難易度を示しており、数字が大きくなるにつれて難しい内容を扱うこととなります。このコースは101なので最も入門的な内容となっており、一緒に受けている受講生もアルバータ大学に入学したての学生が多くなっています。Zoomで100人弱が一斉に授業を受けるような状況ですが、インストラクターのマリーナ先生が丁寧に説明してくれるので、安心して受講できています。内容的には、9月はSemantics(意味論)を中心に学びました。私は千葉大学で言語学の内容もすでに学んでいたため既習の内容も含まれていましたが、このコースではさらに奥深い内容を学んだり、他の言語の例として日本語が出てきたりと、別の視点から意味論を学びなおすことができ、楽しく受講しています。1番おもしろかったのは、「日本語では英語と比べて敬語表現が多く見られ、『ビール』を丁寧な表現にすると『おビール』になるんだよ」という日本語の例が出てきたことです。評価は約3週間ごとに行われる小テストがメインになるので、継続して勉強していきたいと思います。

### 2.Introduction to the Teaching of English as a Second Language (EDPY 416)

このコースでは、英語の教授法についての内容を学びます。416と難易度が高めの授業で、30人くらいの受講生は大学院生や4年生などが多く、たくさんの知識に触れることができ大変勉強になっています。インストラクターのケント先生は、日本で10年間英語を教えていた経験があり、実践的な内容も多く含まれています。この授業ではLING101とは違い、Zoomのブレイクアウトルーム機能を使ったディスカッションが多く行われ、英語力が未熟な私はなかなか話についていけず苦勞することも多いですが、いろいろな学生たちと話す中で日本の英語教育がどう見られているかということを知ることができ、大変勉強になっています。

## 2. 生活の状況

生活の状況は、日本にいますのであまり変わっていません。しかし、2つの授業は両方Zoomの同時双方型での受講となっているので、時差による生活リズムの乱れが深刻です。①LING101は火・木の週2でカナダ時間11:00~12:20、②EDPY416は火の週1でカナダ時間17:00~20:00なのですが、①は日本時間で深夜2:00~3:20、②は日本時間で8:00~11:00となっているので、少し大変です。

初めての報告書なので自己紹介をしたいと思います。

私は、千葉大学/教育学部/中学校教員養成課程・英語科教育分野に所属する3年生の学生で、将来高校の英語教員になることを目指しています。千葉大学に入学してからの2年半で、言語学や英語教授法、教育に関する心理学や法律などを学ぶことができました。

私が留学をしたと思った理由は、優れた英語教員となるため、第二言語習得論や言語学、TESOLをより深く学びたいと感じるようになったからです。また、日本の英語教育界は現在大きな変化の時期を迎えています。海外の視点から日本の英語教育を見直すことは非常に有意義であると考えたからです。

本来は2020年9月からカナダに渡航し、いろいろなことを体験したいと思っていましたが、社会状況の悪化により、残念ながらそれは叶わなくなってしまいました。しかし、海外留学支援室の方々のサポートのおかげで、異例のオンライン留学を実施できております。このような機会を得ることができたことに感謝し、このオンライン留学での学びを充実したものにできるよう頑張っていきたいと思います。